

踏み跡 <My Mountains>

奥秩父	三ノ瀬から和名倉山	No.211
-----	-----------	--------

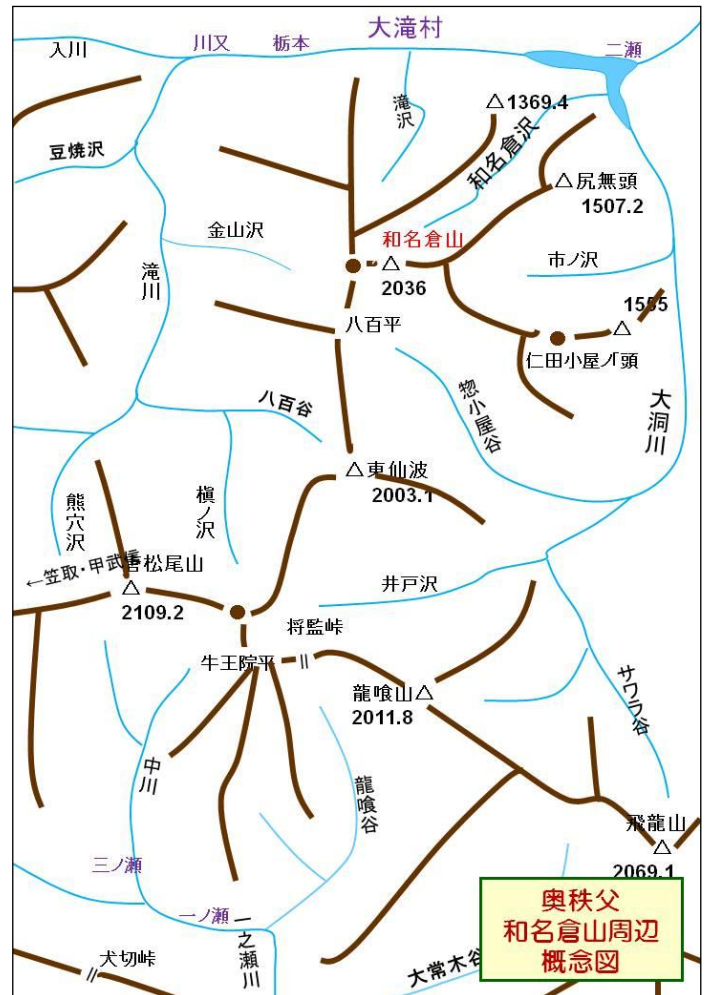
和名倉山（別名：白石山）は奥秩父の主稜線にある唐松尾山の東のピーク（西御殿岩）から大きく北に張り出した 2036m の山。

滝川谷と大洞川に挟まれ、奥秩父の主稜線からは遠く離れたところに立つこの山はなんと平面的にみると東西 8Km・南北 8Km の大きさで奥秩父を睥睨するような存在である。富士山の海拔 2000m 以上の大きさと同じぐらいになる大迫力の山である。地図を読み取るとよくわかることだが、滝川谷と大洞川の「谷としての大きさ」を見ることで和名倉山の存在の大きさがわかる。

まるで独立峰であるかのようなボリューム感のある山容、あの大きさは何だろうと気になる山だった。かなりの人が興味を持つが、いわゆるハイキングコースになるような整備された登山路があるわけではなく、なかなか辿り着けない山、名峰でありまた秘峰でもある。

奥秩父を歩き始めた昭和 40 年代頃から注目し、登ってみたい山のリストに挙げていた。

恩田、石関と意気投合し、恩田とは昭和 55 年以来、石関とは昭和 45 年以来の久しぶりの山行が実現する筈だったが、直前に石関のお母さんが亡くなり残念ながら二人の山行となってしまった。



平成 2 年 8 月 23 日

天気は晴れ。7 時 15 分飯田橋駅前に集合、恩田車（いすゞ Bighorn）に同乗して出発。

多摩川源流の青梅街道一ノ瀬を経て三ノ瀬に 10 時 50 分に到着。駐車場所を確保して身支度を整え、11 時 15 分に出発。将監（しょうげん）峠への道は沢をいくつも横切りながら尾根を巻くように登って行くので、あまりきつく感じずに登ることができる。途中にいくつも水を飲める場所があって 8 月末の暑さの中を歩くのにはうれしい。

振り返ると藤尾山の向うに黒川山（鶏冠山）が黒く大きく立ち、谷からの涼風が心地よい。

将監小屋に 14 時 20 分に到着。ここから先には水が豊富な場所はないので、ここをベースキャンプとして明日ラッシュアタック。ひと休みした後幕営。

まだ時間が早いので、龍喰山（りゅうばみやま）直下あたりから牛王院平（ごういんだいら）あたりまでをぶらぶらと散策。

将監峠の小屋はすでに管理人が下山してしまい無人になっている。扉は施錠せず、中もきれいに整頓されており使用者が入れるようにしてある。「素泊まり 2800 円」と書いてあった。

将監峠まで行ってみたら、「笠取山方面への巻き道は崩落のため通行不可・尾根伝いに臨時ルートあり」と表示してあった。

夕食はアルファ米におかずの缶詰、スープ、食後に紅茶。夜になったら曇ってきたため星空を楽しむことはできなかった。

平成 2 年 8 月 24 日

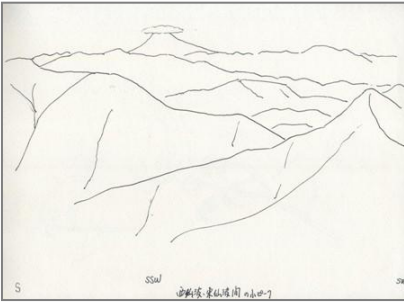
起床 4 時、曇りがちなながらも「晴」と言える空模様。朝食は中華三昧に餅を入れて「餅入りラーメン」。

5 時 33 分テントサイトを出発。山の神戸 5 時 50 分、ここから主稜線を離れて和名倉山へのルートに入る。

8 月ではあるが、早朝でまだ暑くないので快適。すぐに背丈に近い深さの笹の中の踏み跡を探しながらのト

踏み跡 <My Mountains>

ラバースで始まった。藪こぎに備えてオーバースボンを着用。夏のオーバースボンは少々暑い。



富士は笠雲を従えて甲武信岳方面には四段レンズ雲。(左スケッチ) やがて巻き道が終わって比較的歩きやすい尾根上の道になりしばらくで東仙波(2003.1m)に到着。時計を見ると8時30分、10分ほどの小休止。ここは素晴らしい展望で、奥秩父や南アルプス北部が良く見える。和名倉山は大きくどっかりと前に立ちはだかっている感じで、幅の広さに驚く。

踏み跡か杣道かはたまた獣道か、「跡」がいくつもあり迷いやすい。実景と地図と磁石だけが頼りの、山歩きの原点のような歩きが続く。時には太陽

の位置なども・・・。

さほど大きくもない起伏を繰り返しながら、目の前に見えているターゲットに向かって進んで行く。

八百平を過ぎて大きなピークに緩やかに登って行くと、東側にやや高い頂。

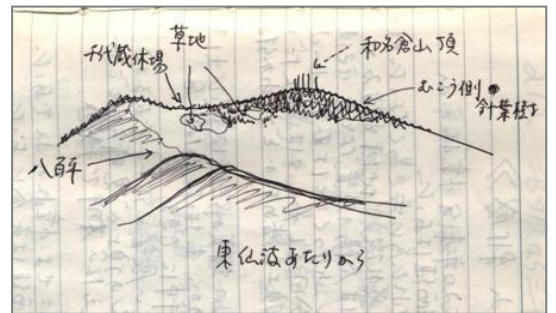
和名倉山頂上(2036m)10時55分。予想以上に早く辿り着いた。山頂を示す標識が倒れたままで気の毒な感じがした。針葉樹林の中の3~4m四方の狭い頂上は、枯死した巨木の群れの中にあり、回りの景色は何も楽しめないが、憧れの山に到達できたうれしさをおかず昼食と大休止。メニューはパンにアンチョビーとキュウリ。

12時に出発し元のルートに戻る。山頂で展望が得られなかったので、帰りはポイントポイントで小休止をとりながら景色を楽しむことにした。

東仙波と西仙波の間のコル14時30分。奥秩父の主な峰々、浅間山方面の信州の山、南アルプスは白根三山から聖岳まで、富士山、道志の山まで・・・。8月なのにこんなに良く見えていいのかなと思うように何でも見える。

山の神戸16時10分、ここまで戻ってくれば何も心配はないので、最後の大大休止。缶詰のブドウを食べてのんびり雑談。

17時15分天幕場に帰着。大願を果たした晩の食事は雑談も弾む。夜は星が満天、昨日よりも寒いような気がする。



平成2年8月25日

起床4時、天気は晴。朝食はガンバレ玄さん。

山の神戸まで行き唐松尾山山頂方面を狙って歩き始めたが、崩落により通行不能。途中まで諦めて天幕に戻り下山の準備。

三ノ瀬への下山の途中で和名倉山に登るというパーティとすれ違った。ルートの状況を教えてあげたら、諦めて下山してしまった。

大きな水場で昼食と大休止(とは言ってもまだ9時46分)。

ここで荷物を軽くして、駐車場所に10時53分に帰着。夕方には帰宅ができた。

「20年来の憧れの山」なりの価値がある山だった。伐採が進んでかなり歩きやすくなってはいたが、それでも地図と磁石とで歩くスキルが必須の山である。鬱蒼とした秩父の原生林の中を登頂した先人に敬意を表したい。たまたま天候に恵まれて、実景の確認や太陽の位置なども助けになり無事頂上を踏むことができたが、もし曇天か雨天だったら難航したに違いない。

和名倉山へのルートは奥秩父の主稜線から北に飛び出しているため入るのは大変だが、主だった山なみをすべて手中にできる「素晴らしい展望の山旅」が体験できる。しかしながら、頂上は樹林の中にあり何も見えないのが残念だった。しかし、山中で誰にも会わずまたゴミひとつないという「美しい静かな山」がまだ残っていて安心した。

以上